

いんき新報

刊夕六十二月十
代價 一月部 金貳拾錢
印刷所 活版所
社信通城警 所行發
番五六四話電

朝三暮四の 地方官更迭

□地方官の更迭は近年内閣の更迭に伴ふ必然の行事となつてゐる、夫して其の目的或は老朽淘汰と謂ひ行政の刷新と謂ひ要するに公明正統の中心として地方に於ける一般大であるかの如く聞ゆれば、物資の動向を聞きとらるるも、而して内閣の更迭必ずしも稀有でない時代にあつて一人を以てて来た東京より仕清の必要がありとすれば我々も、官界の實状は寧ろ常識を以て計るべからざるものがある、云はねばなるまい、

依然東京から 平地方の商取引

貨車廻りは震前の三分一 輸出入の貨物滞積す

けに足繁く需要されてゐるのであるが中央線の不通並にトラック用材を供給する秋田木材會社方面に専用車は、或は他の故障に依つて貨車の不廻りが夥しく、其率は震前百車に對する三十車位の割合にて爲るに平野貨物庫は常に貨物山積の有様で運送業者間に於ては目下鐵道當局に對し臨機の緩和策を申請商議中である。

地震で殖えた 本郡の小學兒童

二百五十は永住の見込み 平町の六十五が最高

東京地方震災避難就學兒童であるが各町村別内譯は左の通りである。

- 植田(一一) 錦(八) 山田(四) 窪田(二) 川部(三) 上遠野(二) 入遠野(一) 平第一(二八) 平第二(三七) 仙臺屋事菊田セツ方抱酌婦(小名濱) 内郷第一(四) 内郷第二(四) 内郷尋高(五) 高久(一) 江名(九) 矢田(二) 川辨吉長女奥山キミ(一九) 湯本(二五) 好間(三) 赤井

噫猪狩氏

小野生
縣會議員猪狩金之助氏は俄然去る二十日午前六時死期去した、此訃報に接した知むべき事である、余輩もつて能く集、め能く散した事、異論はない此を思ふ時、已は何れも其餘りに人生の果なきに呆れたであらう身魚も雷ならざるものあつた、ゆる辛酸を嘗め惡戦苦闘、能く其榮冠を勝ち得て石城實業界に於ける一人者として自他共に之を免すの地位に達した、殊に過般縣會議員として住込み二十八日午後十時頃無断家出したるまゝを願出たてた。

電信爲替の 制限を撤廢

一部は尙ほ不通
平野便局にては震災後同地方に宛てた電信爲替の金額を制限しておいたが二十五日より制限を撤廢したが、なほ東京、横濱、横須賀市内の無集配三等局及兩國、新橋、葵町、逓信省構内、司法省内、横濱驛前、同櫻木、長者町局にては當分は取扱はぬと

橋は林のように 小名濱港の昨今

海陸連鎖に利用したい 鈴木町長から上申す

避難港としての小名濱港は、此の秋に際し同港を制限しておいたが二十五日より制限を撤廢したが、なほ東京、横濱、横須賀市内の無集配三等局及兩國、新橋、葵町、逓信省構内、司法省内、横濱驛前、同櫻木、長者町局にては當分は取扱はぬと

我子を殺す

過失致死罪で
好間村大字中好間字石坂十五金次郎妻猪狩サヨ(二五)は去る十一日午後十一時、自宅に於て長男武次郎當歳を抱き就寝し哺乳中その儘眼りに就き乳房を以て武に刺しつけたので平野柴田警部補取調の上過失致死罪として本二十六日檢送

湯本校見學

茨城縣霞ヶ浦に
湯本尋常小學六年生男女六十九名は山田校長以下六名の訓導引率の下に今二十六日午前五時十五分湯本發上り列車にて茨城縣霞ヶ浦の海軍飛行隊見學の爲め修學旅行の途に上つた

三澤教諭出發

商業教育視察に
平商業學校教諭三澤徳義氏は商業教育視察のため本月二十八日より三十日迄三日間郡山、須賀川、福島、山形、米澤各商業地へ出張すると

青年寄附

草野村青年團にては過般震災救護習習金募集のため活動寫眞會を催したが右純益金百圓を郡役所を経由寄附したと

平署の移動

平野高等特務管原巡查は内郡村宮竹之内派出所勤務を命せられ梅澤特務之れと交代し白井巡查は所在地第十

酌婦逃走

今日捜査を願ふ
平野村木町一八番地飲食店を拾有艘定繫して尙ほ安全なる域にあり爲めに東京地方震災後横濱鹽釜間を航行する商船の寄港するもの頗る多く前途益々期待するも

仙臺屋の

今日捜査を願ふ
平野村木町一八番地飲食店を拾有艘定繫して尙ほ安全なる域にあり爲めに東京地方震災後横濱鹽釜間を航行する商船の寄港するもの頗る多く前途益々期待するも

商船も

五百噸のもの
平野高等特務管原巡查は内郡村宮竹之内派出所勤務を命せられ梅澤特務之れと交代し白井巡查は所在地第十

南町の大工夫婦が

繼子いじめ

可哀想に三ツの長松を 平署から厳しい説諭

平町南町七〇番地居住大工職宮崎貞二(三五)と其妻おこん(三二)は揃ひも揃つて持つて生れた邪嫌な性分であるが二人の子供の無い所から一昨年暮百圓程の扶養金 附で或る者が長松と云ふ今年三歳になる兒を貰ひ受けた。最初

墓標に來た客人を 墓標で毆打す

亂暴な徳藏今日送檢

夏井村大字荒田目字田中内を負はせ平署に告訴され取打を續けて來たが昨今に至北四十六番地平民農夫吹徳調べの上二十六日傷害罪として近隣の嫌はれ者である因は仙治死亡當時財産の分

胸像を建設

緑川氏の 平組は二百圓を 遺族に贈る

胸像を建設する事としなほ平組員は一名五十錢宛を據出

天(石) 氣(一) 報(圓) 晴れ
日七十二月十

植田支局から

待ち疲れた狩獵期は明け山々の總てが獲物を蓄へて待つてゐる姿である。窪田町を去る西部約一里半川部村小川の部落を横断する四時川は小石が重疊して其の中を水晶よりも遙かに清い澄明な水が轉り滑るやうに流れて行く植田水電の發電所を包圍した小高い山々は

震災哀話

エス夫の死

此の費用を支拂ふには現在の官所を辭するの他に術がない。其結果エス夫は住み馴れた平を後に兩親の身を案じ乍ら職を東京に求め聞かぬも戦慄すべき本所龜澤町のパン屋に精勵して居つたのに。噫情しむ可した残され老兩の泪はかたく眠もなく毎日夢の如く寂しい日を送つて居る。(完)

此の費用を支拂ふには現

秋も名残をつげる時
かよわき枝を支へつゝ
優く咲きしコスモスの花
私は君を忘れはざらう
自然は君を忘れはざらう
かなしき秋も君のため
春がめぐりし如くにて
感情的の人間を
長閑な心によみがへす
嗚呼淋しき秋くれに
唯一つ麗しく
咲きしコスモスの花
書齋の窓より
庭に遊びし雛鳥も
寢床さして歩む時
夕焼窓に目も眩し
明日も天気を語るらん
いとも長閑な家々の
軒の輪洩るる白煙の
五色の色を柵引かす
ゴーンと一聲
暮れ六つの鐘
餘震が窓に振るる時
おい！と呼ぶ母の聲

靴店開業

御披露ノ爲メ
破額ノ値段ヲ
以テ提供……
平町白銀町停車場前
大塚支店
今近流行新形
堅牢無比ト優美ハ
弊店ノ特色……

薬は

親切第一
買良いい店
平町一丁目
大平屋薬舖

西洋料理開業
多少に不拘御愛食あらん
事を御願致します
富店の特長は
カフエ
トモエ
小名濱町上町
電話(呼出)第三八番

平町五丁目九番地
平醫院
院長 遠藤淺香
醫學士

江島屋洋服店
目丁二町平
し出呼
番五三四話電

酒は！
鶴仙
釀造元 松吉屋本店
電話二四一番